

資 料 集

各講演会基本情報一覧

各講演会案内文

各講演会アンケート

各講演会アンケート結果一覧

報道資料

視察先一覧

本年度のパンフレット

ホームページ

各地域講演会基本情報一覧

	伊佐市	奄美大島	霧島市	鹿児島市	種子島	枕崎市
日 時	H22.7. 27 (火)	H22. 10. 26(火)	H22.10. 29(金)	H22.11. 7(日)	H22.12. 18(土)	H23.2. 9(水)
会 場	伊佐市 大口ふれあいセンター	奄美市振興会館	霧島市 すこやか保健センター	かごしま 市民福祉プラザ	西之表市民会館	枕崎ステーションホテル
演 題	広げよう 伊佐の子育てねっと 地域で育てよう 伊佐の子どもたち！！ ～子どもの「気になる」行動、 発達を通して考えてみよう～	児童・生徒との対話 —ロールプレイを 通した体験学習—	母親に不安を与えない 問診・指導技術 について	臨床動作法における 援助者としての心得	昨今の不登校の傾向と 支援に向けた関わり について	ライフサイクルと こころのトラブル について
講 師	土岐 篤史 准教授	落合 美貴子 教授	服巻 豊 准教授	山中 寛 教授	中原 睦美 教授	金坂 弥起 准教授
参加人数	87 名	23 名	32 名	74 名	39 名	54 名
主 催	伊佐市	奄美市教育委員会	霧島市 すこやか保健センター	鹿児島動作法研究会	西之表保健所	社会医療法人慈生会 地域活動支援センター うえるふえあ
共 催	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科

第3弾

広げよう 伊佐の子育てネット

地域で育てよう。伊佐の子どもたち！！

～子どもの「気になる」行動、発達を通して考えてみよう！！～

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、以前と比較して子どもとのかかわりに戸惑うことはありませんか？

子どもの発達の道すじは、今も昔も変わりません。しかし、こんな時代だからこそ、専門家には、今まで以上に科学的に人間の発達を理解し、適切な対応が求められています。

子どもの「気になる」行動の背景には何があるのでしょうか。子どものうちなる声に耳を傾け、子どもの願いや気持ち、そして思いに気づいてあげましょう。大人の願いも大切ではありますが、待つ必要がある子どもはたくさんいます。

子どもの専門家として、子どもを正しく理解して向き合う。何から取り組めばいいでしょう・・・一緒に考えてみませんか？

前年度に引き続き、伊佐の子どもたちの健やかな育ちを保障するために、今回上記のような趣旨で研修会を企画いたしました。

記

講師：土岐 篤史 先生（児童精神科医師・臨床心理士）

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 准教授

対象者：保育士・幼稚園教諭・学校教諭・保健師・臨床心理士・SSW・等

受講料：無料

申し込み先：伊佐市福祉事務所子育て支援係（別紙様式 メール、FAX可）

期 限：平成22年7月20日まで

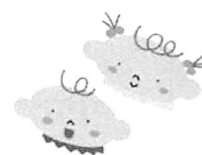
※申し込みされる場合は、必ず、子どもの困っていることについてご記入の上、申し込みください。

期 日：平成22年7月27日（火）19時00分～21時00分

場 所：伊佐市大口ふれあいセンター3階

主 催：伊佐市

共 催：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科



事務連絡
平成22年9月15日

在宅保健師 様
心理相談員 様

すこやか保健センター

母子健診スキルアップ研修会のご案内

日頃より、本市の母子保健事業については、多大なご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

さて、標記について、母親に不安を与えない面接技術や健診時の母子の観察のポイントについて、下記のとおり二段階の研修を予定しております。

貴重な機会ですので、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。場所はいずれも、すこやか保健センターで行います。

参加申し込みについては、保健センターまでご連絡ください。

記

1. 研修会

研修会Ⅰ 平成22年10月29日（金）15時～17時

内容：講演及びロールプレイング

演題「母親に不安を与えない問診・指導技術について」

講師：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

准教授 服巻 豊 先生（臨床心理士）

研修会Ⅱ 平成22年11月15日（月）14時～16時

内容：講演

演題「1歳6か月児健診・3歳児健診観察ポイントと事後フォローについて」

講師：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

准教授 土岐 篤史 先生（児童精神科医）

第100回鹿児島動作法月例会記念 特別講演会のご案内

「臨床動作法における援助者の心得」

日 時: 2010年11月7日(日) 10:00~12:00

会 場: かごしま市民福祉プラザ5階 大会議室

鹿児島市山下町15-1

(鹿児島県民交流センターの向かい角のビルになります。)

講 師: 山中 寛 先生(鹿児島大学大学院臨床心理学研究科・教授)

対象者: 動作法を通じた対人援助に関心のある方

定 員: 100名 (定員になり次第、期限内でも締め切らせていただきます。)

受講料: 無 料

主 催: 鹿児島動作法研究会

共 催: 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援: 鹿児島市教育委員会

申込先: 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 専門職大学院支援室

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30

TEL: 099-285-7555 FAX: 099-285-3907

E-mail: kagoshimadohsa@live.jp

申込方法: 別紙参照(メールもしくはFAXにて、お申込み下さい。)

申込期限: **2010年11月1日(月)**

* 本講演会は、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の地域支援プロジェクト事業の一環です。

～講師プロフィール～

山中 寛(やまなか ひろし)

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科教授, 臨床心理士, 日本リハビリテーション
心理学会認定スーパーバイザー, 日本臨床動作学会認定臨床動作学講師,
日本スポーツ心理学会認定メンタルトレーニング指導者

専門分野: 臨床心理学, スポーツ心理学

著 書: 動作とイメージによるストレスマネジメント教育 基礎編・展開編

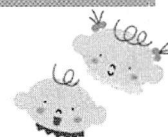
昨今の不登校の傾向と 支援に向けた関わりについて

近年、不登校ということばが広く認識されるようになり、スクールカウンセラーなどの存在も一般化しています。他方で、社会状況の変化に伴い、不登校のあり方やその背景にある力動には変容が見られ、従来の「登校刺激を与えない」という関わりだけでは不十分な事例が増えてきています。

不登校や不登園を生涯発達の見点から捉え直し、その状態像や背景を理解することで、当事者や家族への支援がより効果的になっていくことが期待されます。

「こうすればよい」というHow toを超えた「かけがえのない『この子』の不登校をどう理解し、どう支援したらよいのか？」を一緒に考えてみたいと思います。本人・家庭・学校・地域にとっての不登校の意味を一緒に考えてみませんか？

講師：中原 睦美 先生



(鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 教授, 臨床心理士)

期 日 : 平成22年12月18日(土) 10:00~12:00 (受付 9:30~)

場 所 : 西之表市民会館会議室

対 象 者 : 保育士・幼稚園教諭・学校教諭・養護教諭・保健師など、
子どもに関わる支援者の方々

受 講 料 : 無 料

主 催 : 西之表保健所

共 催 : 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

申し込み先：西之表保健所 (別紙様式 FAX 可)

期 限：平成22年12月10日(金)まで

*本講演会は、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の地域支援プロジェクトの一環です。

平成22年度 地域支援プロジェクト事業

ライフサイクルとこころのトラブルについて

～対人援助って、難しい?!～

この度、地域活動支援センターうえるふぁあでは、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の地域支援プロジェクト事業にご協力いただき、心理臨床に関する啓発講演事業の一環として、地域の対人援助の専門家のスキルアップを目指すことを目的とした講演を、下記の日程で開催致します。対人援助業務を行われている職種の方を対象に、専門職として対人援助の在り方について考える機会として、また現場の職員の方々が活躍する南薩において、皆様の専門性を高めるお手伝いになればと思っております。ぜひご参加ください。

記

講 師： 金坂 弥起 先生（臨床心理士）

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 准教授

演 題： ライフサイクルとこころのトラブルについて

未だかつて経験したことのない少子高齢化社会に突入した21世紀の我が国において、人間の個性性と多様性の理解を目指す臨床心理学の重要性がますます高まっています。人間の個性性・多様性を理解するとは、自分とは違う考え方や生き方があることを認め、それを尊重することです。「競争社会」「格差社会」における如何ともし難い人間の生きづらさは、そのような資質を備えた専門職が求められている証拠でしょう。そのためにも、今改めて、生涯発達の観点から人間のライフサイクルを概観し、そこで生じうるさまざまなこころのトラブルへの理解を深めることは、人間が「生きる」という個別のリアルな文脈と向き合う際の貴重な足がかりとなるでしょう。

対 象 者： 対人援助職の方（最大60名まで）

受 講 料： 無 料

期 日： 平成23年2月9日（水） 15時00分～17時00分

場 所： 枕崎ステーションホテル

申し込み先： 地域活動支援センターうえるふぁあ（別紙様式FAX、メール可）

期 限： 平成23年1月29日（土）まで

主 催： 社会医療法人 慈生会 地域活動支援センターうえるふぁあ

共 催： 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援： 鹿児島県南薩地域振興局 枕崎市 南九州市 南さつま市

南薩地区障害者相談支援事業所連絡協議会

鹿児島県訪問看護ステーション協議会

鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会南薩ブロック

鹿児島県介護支援専門員協議会南薩支部

鹿児島県臨床心理士会

鹿児島県精神保健福祉士協会

社会医療法人 慈生会



広げよう 伊佐の子育てネット



～ アンケート ～

本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の講演会活動をさらによいものにしていくべく、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 保育士 幼稚園教諭 学校教諭 保健師 臨床心理士 その他 ()
- 現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 ()年
- 現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演の内容はいかがでしたか（もし感想などありましたら自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

- 今後、講演会等で聞きたいテーマなどありましたら、ご記入ください。

[]

- 日々お仕事をされている中で困難を感じていること、また心理士に対するニーズなどが
ありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。



鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 地域支援プロジェクト

霧島市 母子健診スキルアップ研修会

～ アンケート ～



本日は研修会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

○性別 男性 女性

○年代 20代 30代 40代 50代 60代以上

○ご職業 保健師 その他（ ）

○現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。（ ）年

○現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

○今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

○今回の講演の内容はいかがでしたか（もし感想などありましたら自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

○今後、講演会等で聞きたいテーマなどありましたら、ご記入ください。

[]

○日々お仕事をされている中で困難を感じていること、また臨床心理士に対するニーズなどがありましたら

自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収袋にお入れください。



第 100 回鹿児島動作法月例会記念特別講演会 アンケート

本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。

大学院による地域支援の一環としての講演会活動を、今後さらによいものにしていくために、アンケートを実施させていただきたいと思います。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 ()

*保護者として参加されている場合は「保護者」とご記入ください。

- 今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演の内容はいかがでしたか（ご感想、ご質問などありましたら、ご自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

- 今後、講演会等で聞きたいテーマなどありましたら、ご記入ください。

[]

- 日々お仕事をしている中で困難を感じていること、また臨床心理士に対するニーズなどがありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

お帰りの際に、回収ボックスにお入れください。

<アンケートに関するお問合せ先>

地域支援プロジェクト

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発
国立大学法人鹿児島大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻（専門職学位課程）

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番30号

種子島・屋久島地区講演会
～ アンケート ～



本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の講演会活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 保育士 幼稚園教諭 学校教諭 養護教諭 保健師 その他（ ）
- 現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 （ ）年
- 現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演の内容はいかがでしたか（もし感想などありましたら自由にご記入ください）

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

- 今後、講演会等で聞きたいテーマなどありましたら、ご記入ください。

[]

- 日々お仕事をされている中で対応に難しさを感じていることはありますか？またそういったことに対してどんな支援があるとよいですか？もし、ありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。



地域支援プロジェクト 枕崎市講演会
～ アンケート ～



本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。
今後の講演会活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。
1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 看護師 介護士 ソーシャルワーカー 臨床心理士 保健師 教員
その他 ()

○現在の職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 ()年

○現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

○今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

○今回の講演の内容はいかがでしたか (もし感想などありましたら自由にご記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

○今後、講演会等で聞きたいテーマなどありましたら、ご記入ください。

[]

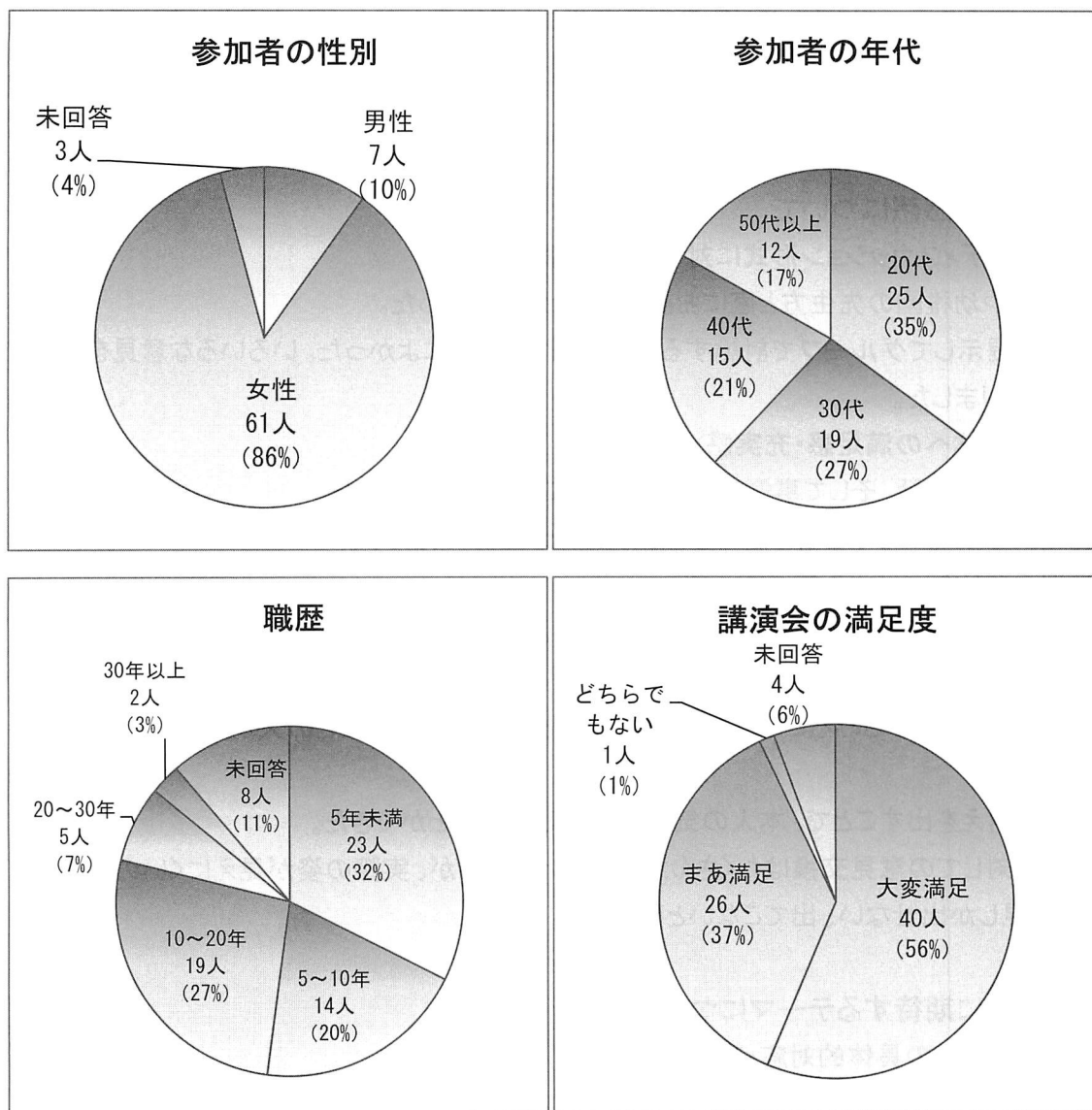
○日々お仕事をされている中で対応に難しさを感じていることはありますか？またそういったことに対してどんな支援があるとよいですか？もし、ありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。
ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。



伊佐市講演会アンケート処理結果



○講演会参加の動機

<子どもの発達に関する学習のため>

- ・気になる子どもの行動の特徴理解、支援の仕方の理解をより深めるため。
- ・支援員として子どもに関わる中でわからないことばかりだったため。

<興味・関心>

- ・気になる子が多すぎる。個性なのか何なのか・・・いろいろな話を聞いてみたいと思った。
- ・発達についてもっと知りたいと思った。

<実際に気になるケースがある・関わりがある>

- ・発達障害が疑われる子どもとの関わりがあったから。

・気になる子どもがクラスにいるため参考にしたいと思った。

〈地域のネットワークづくり・情報交換の場〉

・1人で業務を行っているため、他の学童の先生との交流がなく、困ったことがあっても相談できないため。

・地域でのネットワークづくりの参考にしたい。

○講演会の感想について

〈グループディスカッション形式に対する評価・満足感〉

・保育園や幼稚園の先生方と直にお話することが貴重だった。

・事例を提示してグループで討論するという流れが非常によかった。いろいろな意見を聞けて、勉強になりました。

〈講演会全体への満足感・充実感〉

・土岐先生のお話、そして事例と一緒に考えることで勉強になった。

・発達的な視点から子どもを捉えることがわかってよかったです。

〈支援のあり方に対する気づき〉

・その子のつまづきはどこにあるのか、しっかりとした目線で物事を考えられるようになりたいと思いました。

・さまざまな視点からみることの大切さや、他の先生に相談することの大切さがわかった。

〈その他〉

・色々な考えを出すことで、本人の気持ちを捉えていくことができた。

・事例に対しての意見交換はたくさん意見がきけてよいが、実際の姿が見えにくいので一般的な意見しか出せない、出てこないと感じた。

○講演会に期待するテーマについて

〈子どもや親への具体的対応・支援〉

・診断がついた子や気になる子が大人になることを見据えた具体的な支援についてのヒントがほしい

・保護者への関わり、援助、子どもの状況の伝え方など

〈事例検討〉

・具体的な事例をあげてのアドバイス

・事例を通した対処法について

〈子どもの発達に関すること〉

・思春期の発達

・発達過程について(観察のポイント)

〈その他〉

・妊娠時に異常はわからないか

- ・発達の問題とされるようになった背景と歴史

○困っていること・心理士へのニーズ

＜事例に対する具体的なアドバイス＞

- ・こだわりの強いお子さんで気持ちの切り替えの声かけが難しい。
- ・毎日、同じことを繰り返し、質問する子へのアドバイス。毎日、少量ずつパンツにおしっこをしようとする子への対応。

＜親への支援＞

- ・苦手さを持った子どもさんをもつ、親へのアプローチ。(説明の仕方や療育を紹介する時の伝え方)

- ・このような話を保護者にも聞いてほしい。

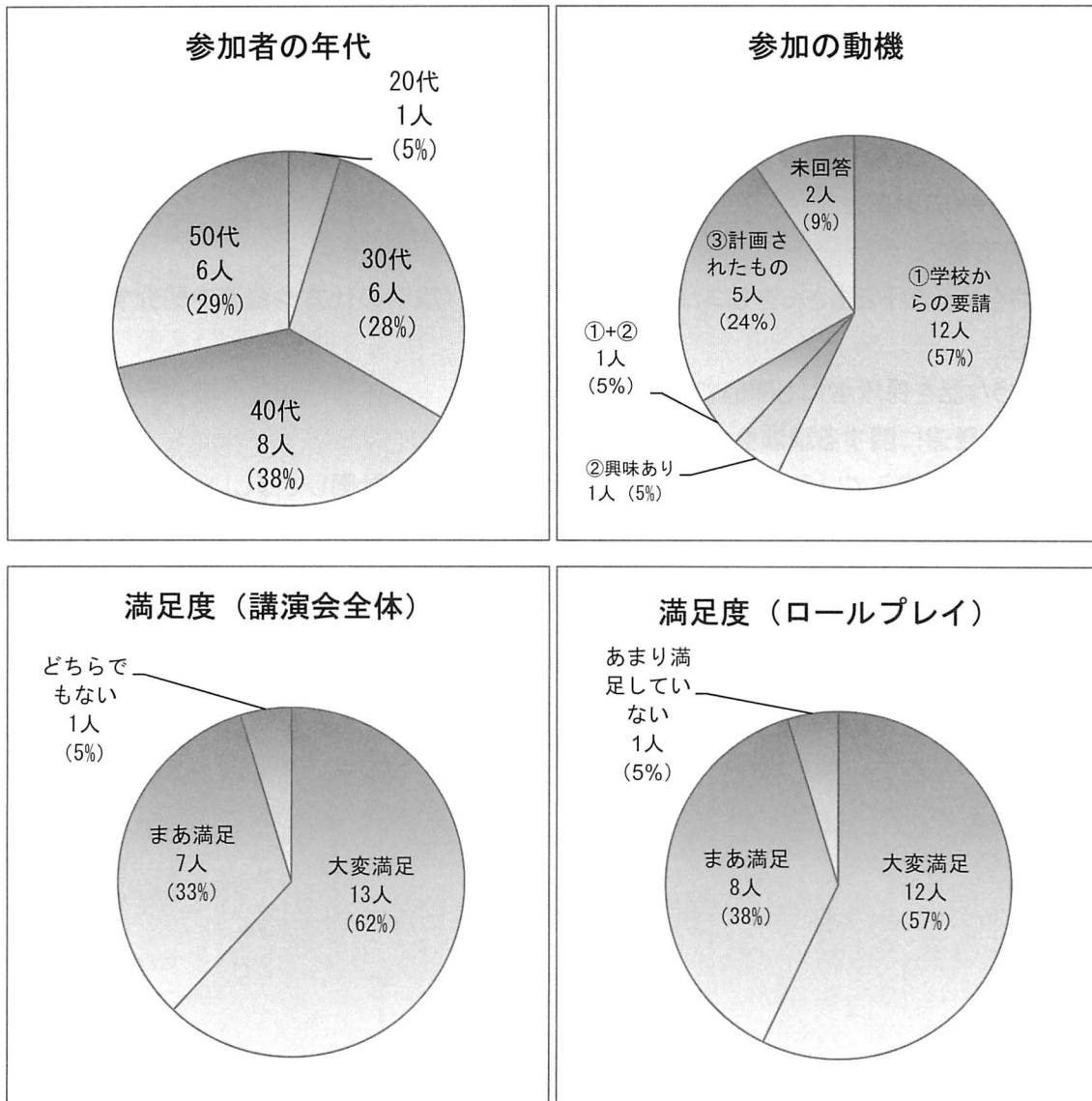
＜子どもの発達に関する講演会など＞

- ・気になる子が増えている中、対応など、これからも講演会を計画してほしい。
- ・どうしたら内面の発達までじっくりと十分に関わることができるのか、心理という面での話もきいてみたい。

＜その他＞

- ・乳幼児健診に臨床心理士の先生に入っただけだと常日頃思っている。
- ・心理士には専門的な見立てが必要とされているように思う。

奄美大島講演会アンケート処理結果



○講演会の感想について

〈対応の仕方への客観的な理解の促進〉

- ・日々の自分の子どもへの関わり方を客観的にみることでよかった。
- ・オブザーバーに見てもらった時に、客観的な意見を聞くことができてよかった。(第三者の存在も大切だと思った。)

〈充実感・満足感〉

- ・ウォーミングアップのおかげでとてもリラックスしてロールプレイができました。久しぶりに養教部会の一体感を感じました。

・時間がもっとあったらいいなと思うくらい充実した研修会でした。

〈子どもの感情理解の促進〉

- ・子ども役をしましたが、話せない気持ちがわかった。”まつ”ことの大切さを学んだ。
- ・ロールプレイはやはり本人になりきれ部分大きいので今日は特に子どもの側の気持ちが体験することができてよかったです。

〈日頃の対応の振り返り〉

・日頃の養護教諭としての仕事、子どもへの接し方について改めて振り返ることが出来ました。

〈その他〉

- ・子どもたち自身が答えを見つけやすいような手立てのあり方について考えさせられた。

○講演会に期待するテーマについて

〈疾患や治療、対応について〉

- ・小児肥満について
- ・場面緘黙児の対応、PTSD の関わり方

〈事例検討〉

- ・中学生の事例への対応

○困っていること・心理士へのニーズ

〈スクールカウンセラーの不在〉

- ・小規模校にも学校カウンセラーの先生がいらしゃるとありがたいです。
- ・スクールカウンセラーがいるわけではないので、なかなか相談する場所がないのが悩みです。小規模校だと仕方ないのでしょうか。

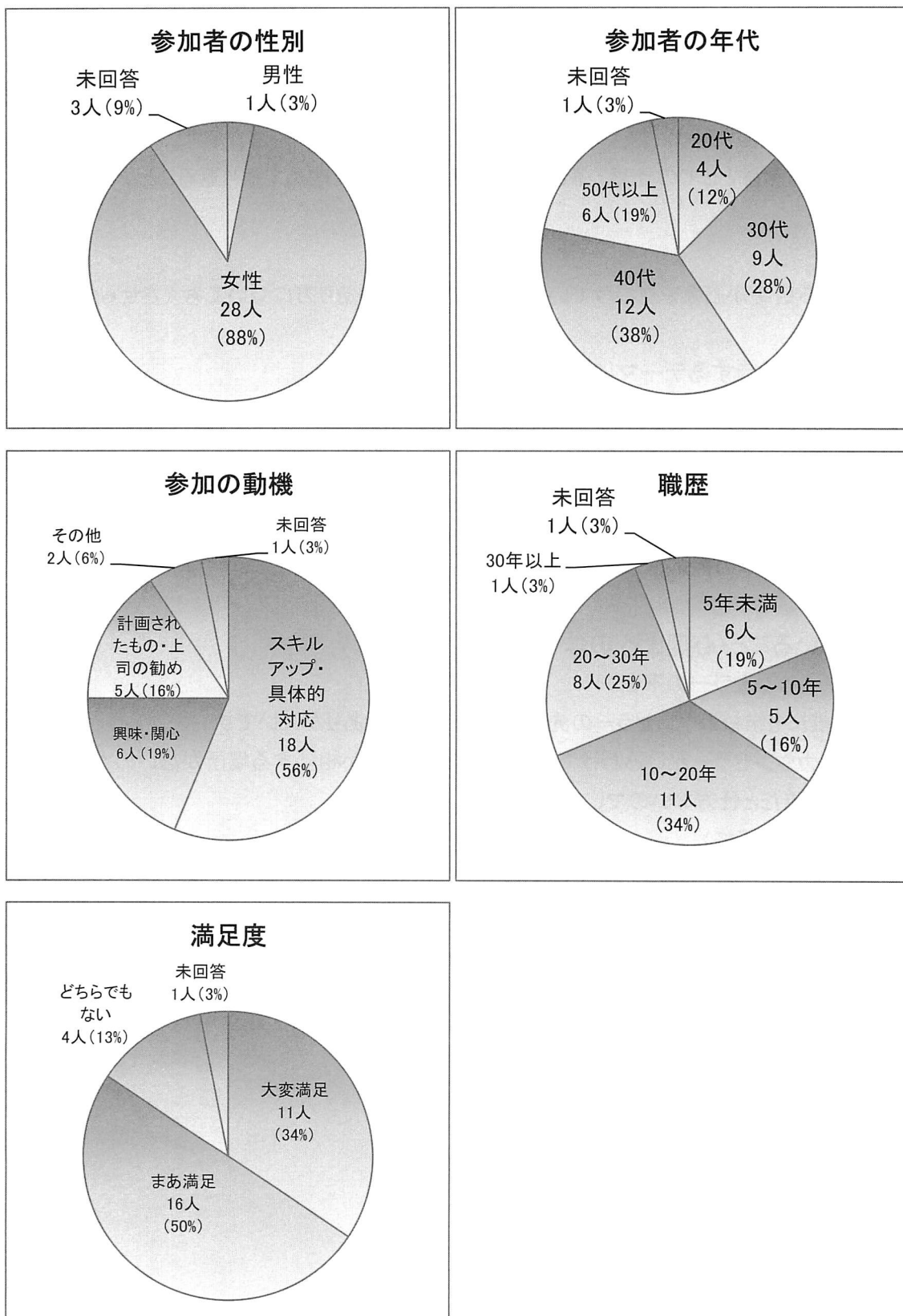
〈他の教員への研修〉

・養教は研修を受ける機会が多いと思いますが、子どもにかかわる人(一般教諭)も研修が必要だと思いました。

〈その他〉

- ・保護者や保健室登校、不登校生徒への対応

霧島市講演会アンケート処理結果



○講演会の感想について

〈充実感・満足感〉

- ・問診を実際にみて経験できたことがとてもよかったです。
- ・劇をすることによって、実際の場面を想定できたのでやりやすかった。

〈母子の感情理解の促進〉

- ・実際にロールプレイをしてお母さんの気持ちになり、健診に来るお母さんの気持ちを少し理解できたような気がする。自分がどこが難しいと感じているのか少し具体的に見えてきた。子どもにかかわり、子どもを見ていきたいと思う。
- ・皆さんの熱演にびっくりしました。具体的な解答はありませんでしたが、母の気持ちによりそう、子供にもっと接することの大切さを学びました。

〈時間不足〉

- ・ロールプレイで終わったのもっと時間があればもっと突っ込んで具体的な関わり方までできたかった。
- ・時間がたつのが早くて、もう少し深く、困った場面での対応を試してみたかったです。

〈具体的希望〉

- ・ロールプレイの場面が健診(問診)場面以外もあると有難かったです。帰りの場面(保健指導)も。
- ・どう対応したらよいか、ロールプレイでもう少しアドバイスをしていただけたらなと思いました。

〈その他〉

- ・目からウロコ。皆がどのように感じているかかい間みれた。また、自分の行っていないところがわかったから。

○講演会に期待するテーマについて

〈今回の続き〉

- ・同じテーマ
- ・もう一度この続きをやりたいです。

〈対話の技術〉

- ・問診で問題について母と会話する場面においてポイント
- ・お母さんが話をしたくなる雰囲気づくりなど

〈その他〉

- ・子どもの発達について。発達の壁(ここをもっと深く知りたい)をどう越えていくか。保育(家庭、集団、療育)
- ・ひっかける基準、問題ないとする基準、自信をつけたい。

○困っていること・心理士へのニーズ

〈保護者(母親)への具体的対応〉

- ・子どもを亡くしたお母さんへのフォローをどうしたらよいか、相談したいです。
- ・訪問や健診受診等で協力が得られない母親へのアプローチの仕方

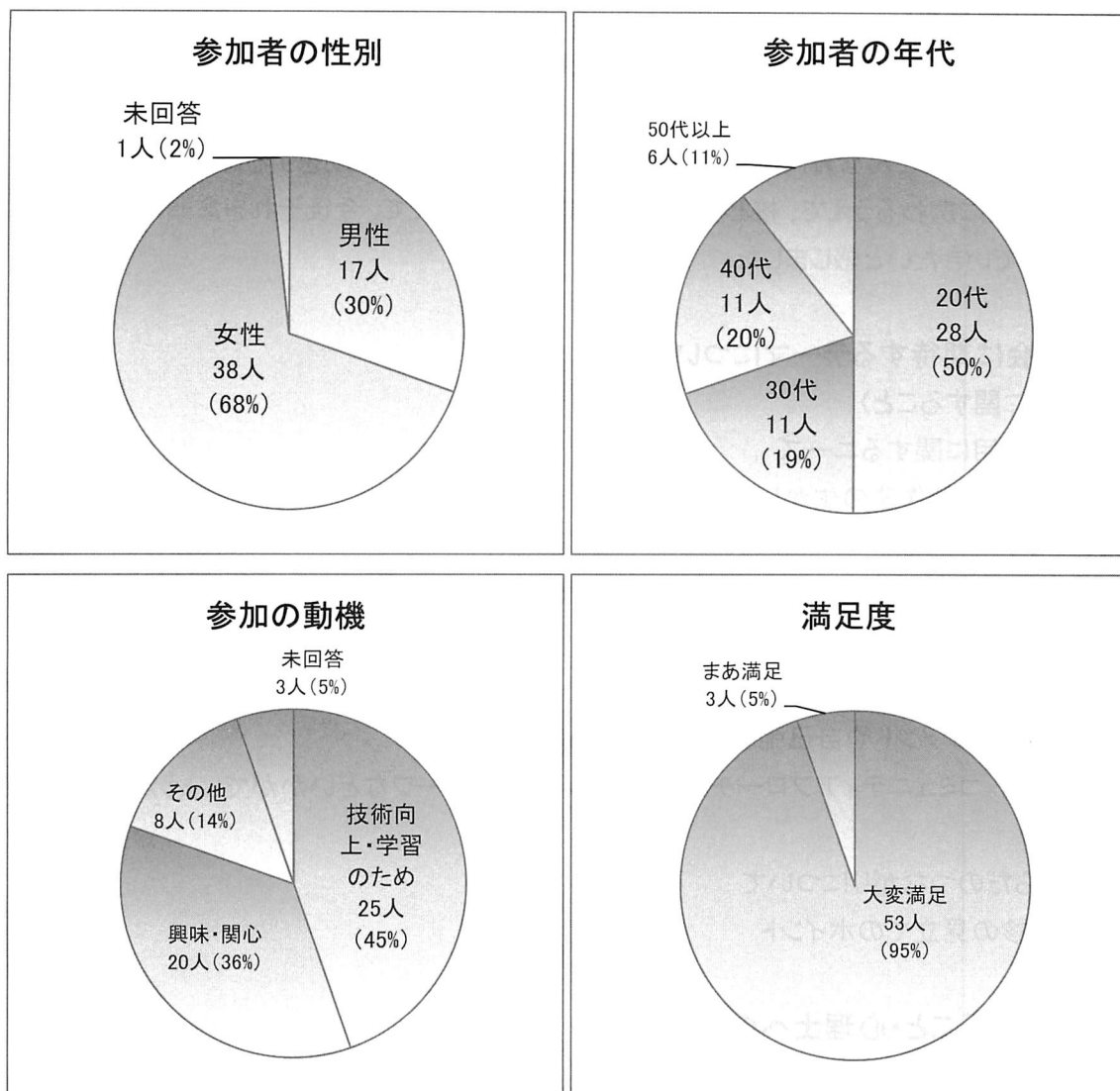
〈心理士が身近に不在であること〉

- ・自分の力不足を日々感じています。困ったときにすぐ相談できたらいいのと思う。
- ・臨床心理士が私たちのスーパーバイザーとして常に来てくれて相談できればありがたい。ケース検討したい。

〈その他〉

- ・学校への介入が難しく、スクールカウンセラーも色々なので対応に苦慮することがある。
- ・対象者とのコミュニケーションのとり方

鹿児島市講演会アンケート処理結果



○講演会の感想について

〈充実感・満足感〉

- ・様々な領域での話がきけて、臨床での示唆となりました。
- ・学校教育、競技選手など先生の経験をふまえてのお話で、動作法の魅力を改めて感じると同時に普段子どもと関わったり、考えたりする中でもっと動作法の本質を捉えて接していかなければと思いました。教育的なアプローチについても話してくださり、とても参考になりました。

〈日常生活や動作法の援助過程などに対する気づき〉

- ・「相手の努力を尊重して相手がどんなことを体験しているかと考えないと動作法と似て非なるものになる」というお話にハッとしました。私自身が今、そのような状況であり、気持ち、心構えを変えたいです。

・援助者である自分自身のことをもっと振り返り、過緊張な状態で支援をしないように心がけたいと思いました。

〈今後への気持ち〉

・動作法をやっていくにあたっての重要な心構えを学ぶことができ、今後現場に出てからも大切にしていきたい。

・今回のご講演でどんな方に適用するのか、適用する際、また援助をする際に大切なこと等、臨床動作法に携わるうえで、核となる貴重なお話をうかがえて、今後それを念頭に、研修、援助に励んでいきたいと感じました。

○講演会に期待するテーマについて

〈動作法に関すること〉

- ・個別の適用に関するニーズ
- ・教育としての動作法の生かし方

〈イメージ〉

- ・イメージについて今回少しお話がでていたので、今後講演会で聴くことができればと思った
- ・イメージについてもっと知りたいです。

〈その他の臨床心理学的技法〉

- ・ストレスマネジメントや自己弛緩などに関すること
- ・臨床催眠、コミュニティアプローチ、エンカウンター・グループなどいかがでしょうか。

〈その他〉

- ・心とからだのつながりについて
- ・発達健診の見立てのポイント

○困っていること・心理士へのニーズ

〈他職種との連携・理解を得ることの難しさ〉

・動作法を含め、多岐に渡る教育的アプローチを学校全体で子どもたちにどう生かしていくか。(教員の連携など)

・質疑の中でもありましたが、他職種にどのように理解してもらうか難しいなと感じています。

〈具体的な支援方法〉

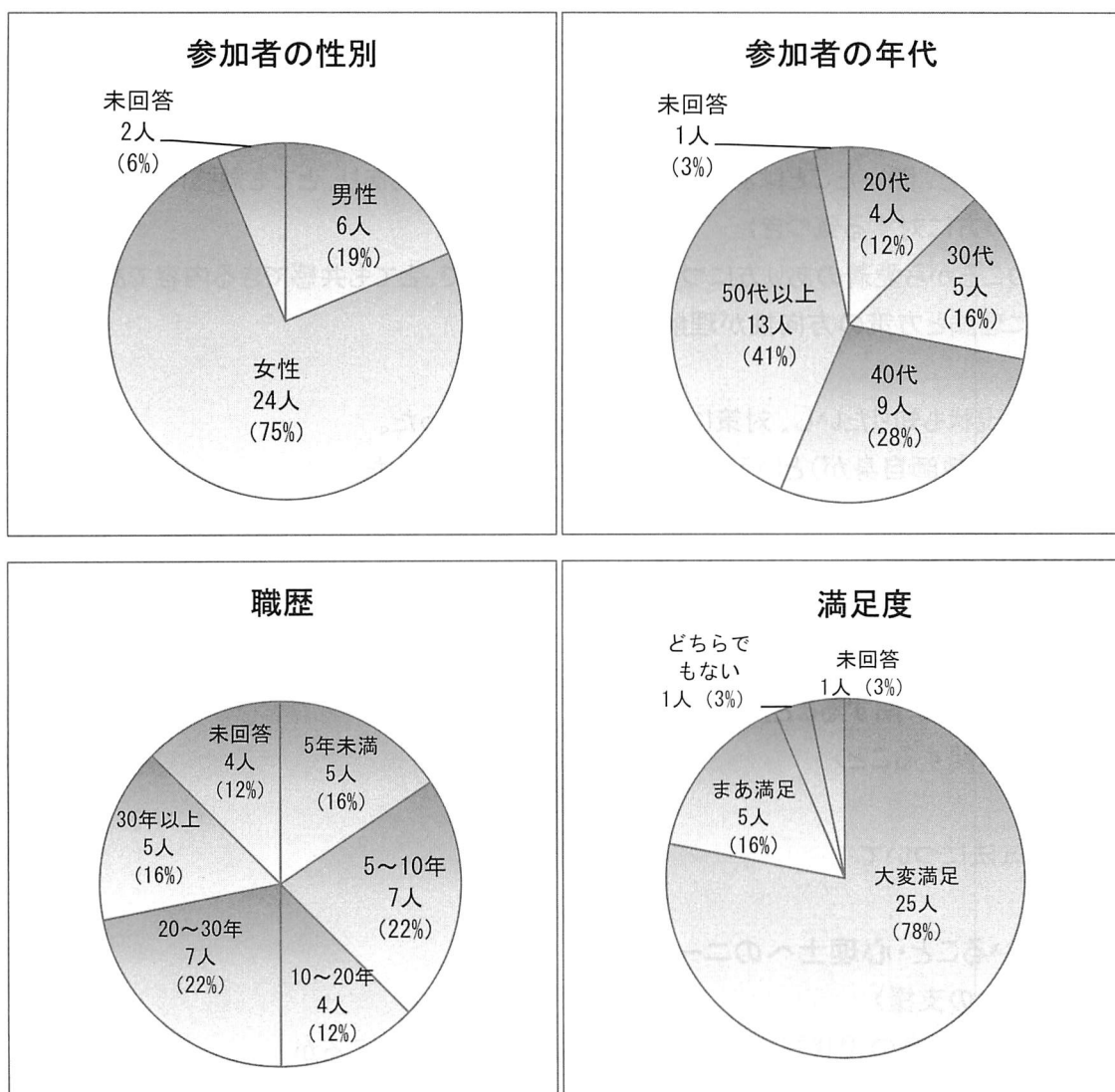
・支援の効果を明確に提示すること、短時間で結果を出すことが求められますが、複雑なケースが増えており、長期的な関わりが必要であるため、アプローチの仕方に迷うことが多々あります。

・今日はありがとうございました。具体的にこの心理状態の時には、この身体の部分に影響が出る。そのため、こういう支援が適切であるといった事例もたくさん知りたいです。

〈その他〉

・研修の場をもっといっぱい得たいなと思いました。

種子島講演会アンケート処理結果



○参加の動機

<学習・研修のため>

- ・日常の業務に関わり、勉強したいと思った。
- ・不登校の子どもの心理状態、関わり方について具体的な支援内容を知りたかったため

<実際に気になるケースがある・関わりがある>

- ・本校に来る事例も不登校が増えているため。
- ・現在、不登校児の対応をしているため

<興味・関心>

- ・現状を知りたいという事が一番。
- ・参考になる話が聞けそうだったから

〈学校からの案内〉

○講演会の感想について

〈充実感・満足感〉

- ・とても勉強になりました。あっという間の二時間でした。もっといろいろな話が聞きたいです。
- ・始めて知ること、聞いたことはあるが知らなかったものなどもあり、とても勉強になりました。

〈支援のあり方に対する気づき〉

- ・保育士のころから愛着のあり方について感じていたので、とても共感できる内容であった。
- ・具体的に理論と方策の方向性が理解できた

〈その他〉

- ・種子島の現状も知りたいし、対策について話し合いたかった。
- ・自分を守る(教師自身が)という観点もあることに気付かされた。

○講演会に期待するテーマについて

〈不登校やいじめに関すること〉

〈保護者への対応に関すること〉

〈愛着・親子関係に関すること〉

〈発達障害に関すること〉

〈その他〉

- ・コラージュ法について

○困っていること・心理士へのニーズ

〈親(家族)への支援〉

- ・子どもや自分自身の現状認識に困難さがある保護者をどう支えるか
- ・地域内での家族の孤立、保護者との関係

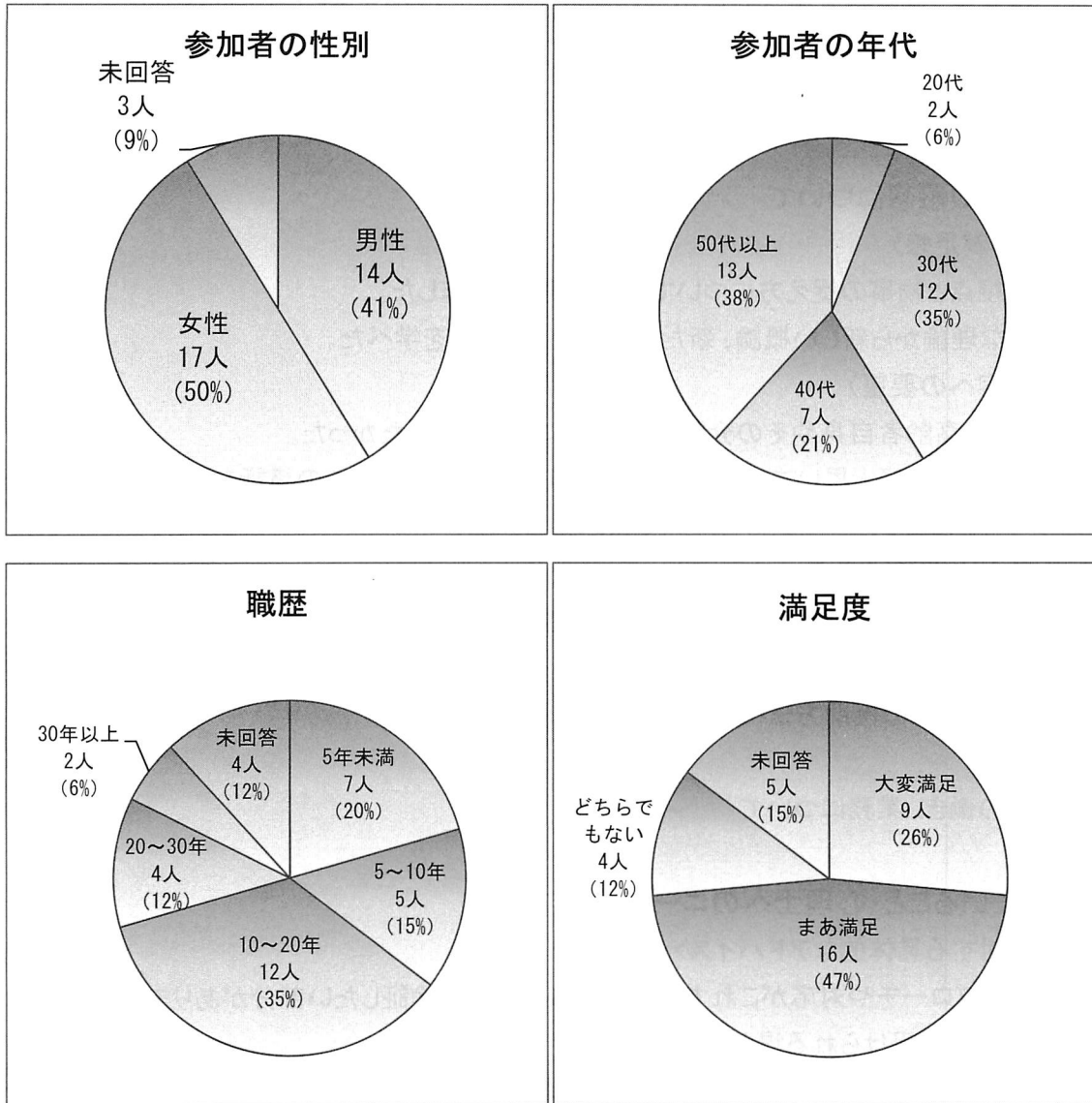
〈専門家・専門機関の不足〉

- ・安心して気軽に相談できる専門機関が島内にあればよいのですが・・・
- ・専門的(専門家)の意見を頂く機会がどうしても必要ではないかと思っています。

〈その他〉

- ・不登校生徒防止に向けての施策立案と対策
- ・毎日追われていると感じることが多いが、どうゆとりをもって対応できるか。

枕崎市講演会アンケート処理結果



○講演会参加の動機

〈学習・研修のため〉

- ・自分自身の中での新しい気付きがあればと思い、参加しようと思った。
- ・精神障害の方の苦しみや悩み、少しでも理解できたらと思った。

〈興味・関心〉

- ・講話の題を知り、おもしろそうだったから
- ・ライフサイクルと心のトラブルについて関心があった。

〈案内〉

- ・事業所管理者が社会福祉士会に入っていた関係で知った。

・講演会資料を見て

〈実際に気になるケースがある・関わりがある〉

・精神障害者、発達障害者(児)への相談業務が最近多くなってきた。

〈地域のネットワークづくり・情報交換の場〉

・講演会の参加者との今後の交流、連携がとれるように考えた。

○講演会の感想について

〈充実感・満足感〉

・多角的視点と物事の捉え方について大変参考になりました。

・基礎的な理論から新しい概論、新たな物の捉え方などを学べた。

〈講演内容への要望〉

・職種がら、高齢者自身やその介護者の心理について伺いたかった。

・時間の制限もあると思いますが、ケースなどの具体例も増やしての講話を希望します。

○講演会に期待するテーマについて

〈精神疾患等に対する具体的な援助方法・対応について〉

・うつ病患者に対するアプローチの方法

・心のトラブルへの援助方法について

〈その他〉

・心理士の働き、業務について

○困っていること・心理士へのニーズ

〈事例に対する具体的なアドバイス〉

・自分のアプローチや対応がこれで良いのだろうか・・・と検証したい部分がありますので、スーパーバイズを受けられる場がほしい。

・利用者への対応。自分のどう対応してよいかわからず、ストレスがたまるので相談員の相談場所がほしい。

〈その他〉

・ストレスケアについて

「発達障害の支援には関係機関の連携が欠かせない」と話す土岐篤史・鹿児島大学大学院准教授
＝伊佐市大口里



伊佐で子育てネット研修会

発達障害への対応学ぶ

伊佐市の保育士、幼稚園・学校教諭ら市の子育てネットワークの核となる関係者約100人が集まり、発達障害への対応や支援のあり方について理解を深める研修会があった。

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の地域支援プロジェクトの一環で、本年度から3年間、地域の課題に対する支援を行いながら、院生の教育プログラムを開発する。県内で障害児療育の先進地として知られる伊佐市では、子育てネットの充実を支援する。

研修会は7月27日、同市の大口ふれあいセンターであった。同大学院の土岐篤史准教授が「早期対応が重要な療育支援に問題の先送りは許されない。ネットワークが情報を共有化、認識のずれを最小化し、チームとしてケアしていくことが重要になる」と指摘した。

参加者は異業種7、8人でグループをつくり、子どもの「気になる行動」の実例について、どのように対応すべきか意見交換した。

土岐准教授は「皆とてもいい気付きができています。子育てネットの基盤はできている」と高く評価。市福祉事務所の中馬節郎所長は「市が目指すべき細かい子育て支援体制の確立に寄与してくれると思う」と、大学院との連携に期待を込めた。

視察先一覧

<他大学視察>

大学名	所在地	日 時	出向者
追手門学院大学	大阪府茨木市	2010.7.23 (金) 15:00～16:30	安部恒久 研究科長 上原美穂 特任助教 川口智美 非常勤臨床心理士
神戸女学院大学	兵庫県西宮市	2010.8.2 (月) 13:00～17:30	土岐篤史 准教授 上原美穂 特任助教 川口智美 非常勤臨床心理士

<海外視察>

施設名	所在地	日 時	出向者
ストックホルム県 BUP	スウェーデン	2011.3.8(火)～14(月)	土岐篤史 准教授 服巻 豊 准教授
Karolinska Institutet	スウェーデン	2011.3.8(火)～14(月)	土岐篤史 准教授 服巻 豊 准教授
Stockholm University	スウェーデン	2011.3.8(火)～14(月)	土岐篤史 准教授 服巻 豊 准教授

<学会およびその他の視察>

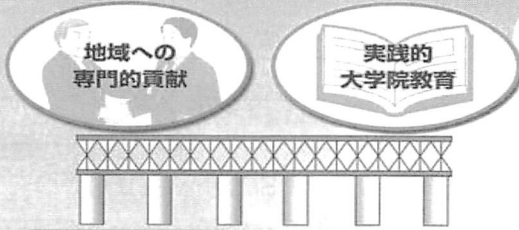
学会名（視察先）	開催地（所在地）	日 時	出向者
日本心理臨床学会	東北大学 (宮城県仙台市)	2010.9.3 (金) ~ 9.5 (日)	安部恒久 研究科長 中原睦美 教授 金坂弥起 准教授 土岐篤史 准教授 服巻 豊 准教授, 上原美穂 特任助教 川口智美 非常勤臨床心理士 富宿小百合 事務補佐員
日本ストレスマネジメント学会	立正大学 (東京都)	2010.7.31 (土) ~ 8.1 (日)	松木繁 教授
日本教育心理学会	早稲田大学 (東京都)	2010.8.27 (金) ~ 8.29 (日)	落合美貴子 教授
FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会	武雄市文化会館 (佐賀県武雄市)	2010.10.30 (土) ~ 10.31 (日)	金坂弥起 准教授
日本リハビリテーション心理学会	名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)	2010.12.10 (金) ~ 12.12 (日)	上原美穂 特任助教
札幌学院大学臨床心理学研究科開設 10 周年記念 心理臨床センター開設 15 周年記念講演会	札幌学院大学 (北海道江別市)	2010.7.18 (日)	中原睦美 教授
チャレンジドの店 あしたば村	鹿児島県奄美市	2010.8.7 (土) 9:00~12:00	上原美穂 特任助教 川口智美 非常勤臨床心理士
社会福祉法人三環舎 あしたば園	鹿児島県奄美市	2010.8.9 (月) 10:00~12:00	上原美穂 特任助教 川口智美 非常勤臨床心理士

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発

「地域支援プロジェクト」と略称します

21世紀の「こころの健康」を地域と共に考える

地域支援プロジェクトの目的



対人援助職の方々の専門性を高めるお手伝いをいたします。

- 心理臨床活動
 - こころの健康に関する講演会の開催
 - 専門研修会の開催
 - 地域相談会の実施

- 地域文化の理解に沿った支援協力
 - 支援ネットワーク会議への協力
 - 事例検討会議
 - コンサルテーション

地域で実践的活動が行える臨床心理士の養成を目指します。

- 学内実習への還元
 - 付設の心理臨床相談室における相談活動
 - スーパービジョンなどへの実践応用

- 実務型教育プログラムの開発
 - 地域支援活動を学ぶ授業科目の創設
 - 地域支援活動の体験を通じた実践的教育の構築

地域支援プロジェクトの概要

こころの問題

心理臨床の専門性のニーズ
コミュニティ・地域文化の理解のニーズ
集団支援という視点のニーズ

専門職大学院・
心理臨床相談室の開設
来談形式によるこころのケア

本プロジェクト

心理臨床相談室内に
コミュニティ部門を新設
実務型教育プログラムの
開発・構築

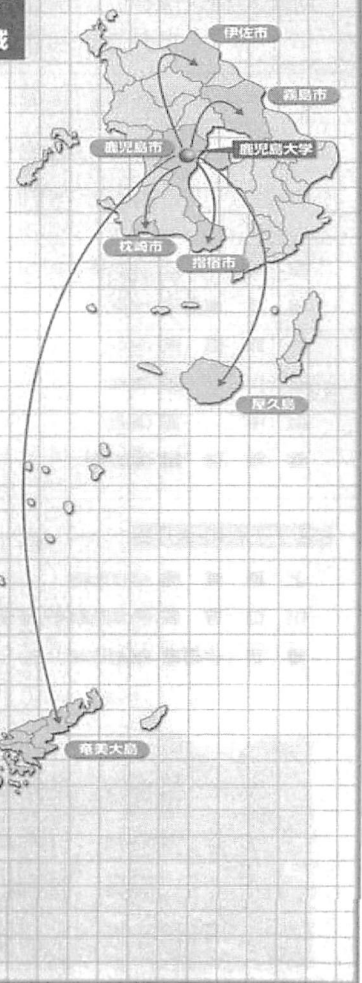
デリバリー方式による地域支援活動

例えば…

心理支援のための講演・研修・相談
行政、地域専門家との連携・協力
災害被害の緊急支援

平成22年度
活動予定地域

奄美大島
屋久島
伊佐市
枕崎市
霧島市
指宿市
鹿児島市 など



専用ホームページ (http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/kumcp/csp/index.html)



鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型プログラム」の開発

ホーム
Home

お知らせ
Information

目的と概要
Concept

実施計画
Framework

スタッフ
Staff

成果
Publish

お問い合わせ
Contact

地域支援プロジェクト

21世紀の「こころの健康」を
地域と共に考える



お知らせ

- 2011/01/12 成果を更新しました。
- 2010/11/10 お知らせ、成果を更新しました。
- 2010/08/10 成果を更新しました。
- 2010/06/28 ホームページ開設しました。



国立大学法人
鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY

鹿児島大学大学院
臨床心理学研究科

附属施設 ↓
心理臨床相談室

専門職GPサイト

鹿児島大学 | 法文学部 | 臨床心理学研究科 | ページのトップへ



鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

Copyright (c) 2010 Kagoshima University Professional Graduate School of Clinical Psychology. All Rights Reserved.

〒890-0065 鹿児島市都元1丁目21-30
TEL:099-285-7353 FAX:099-285-3307